

女性がいぎ

NO.105

発行者 岸和田女性会議
発行日 2023年2月15日
連絡先 TEL 080-4984-5226
送付先 〒596-0042 岸和田市加守町4-6-18
岸和田市立男女共同参画センター一気付
URL: <http://joseikaigi.web.fc2.com/>

2022年度 岸和田女性会議男女平等参画社会推進事業

講師と会場をリモートでつなく講演会

選択的夫婦別姓を考えるII

講師 井田 奈穂さん(選択的夫婦別姓・全国陳情アクション事務局長)

10月1日(土) 13:30~15:30 市立男女共同参画センター 参加者25名



「私から見たら大先輩の皆様」というフレーズから始まったので、思わず緊張してしまいましたが、ご自身の2回の改姓について話し始められました。

<改姓>

姉が国際結婚をしている(別姓)ことから、自分自身の結婚、離婚、再婚時の姓の手続きについて非常に疑問が多く2018年からフェミニズムに取り組んでいる。私は今まで前の夫の姓でずっと仕事をしてきたので、「婚氏続称」のため2度目は事実婚だった。

現在の夫が手術をすることになった時に、戸籍に私はいないので「本当の家族を連れて来て下さい」と言われ、配偶者なのに何も出来ないの?と思った。

子ども二人を連れての再婚で、子どもは名字を変えたくない、結局私が戸籍を抜け今の夫の戸籍に入った。2度目の改姓がとても大変だった。みんなが幸せな社会にしたいだけなのに、今は事実婚か改姓しか選べないのが現実。

<陳情>

現状の法律を変えるのは陳情か裁判しかない、まず地元の国会議員に会いに行った。そして以外にもその議員に「陳情すればいいよ」と勧められ、2018年8月東京都中野区議会に陳情。「選択的夫婦別姓を求める意見書」を全会一致で可決された。そしてIT業界の仕事をしているので、世の中には自分と同じように困っている人がいると、11月「選択的夫婦別姓・全国陳情アクション」のサイトを立ち上げ公開した。現在680名のメンバーがいて、地方議会や国会に働きかけている。2018年は当時の首相から「この問題は与党がリードすべき」との発言もあり、12の都道府県、353件の地方議会でも可決された。大阪府議会は採択に至っているが、岸和田市はまだ(笑)。是非とも働きかけていただきたい。

<取り残される日本>

何故進まないのかということやはりそこには「家制度」がある。1970年代から女性の地位向上が叫ばれて50年。1974年に市川房枝が「結婚改姓に反対する会」を立ち上げ、その後1996年法制審議会が選択的夫婦別姓の改正を答申してからすでに、四半世紀もたっている。

東洋では結婚=父系社会で女性は家に従属するという考え方。1898年に西洋のキリスト教を元に同姓を取り入れてからずっと変わっていない。

西洋でも結婚=父から夫へ女性の身柄の引き渡し(パ

ージンロードの始まり)で、「家制度」はあった。女性はMrs~と、夫の姓名にMrsをつけてよばれて自身の名前さえ失うことに。けれどそこから女性の地位向上とともに、より良い方向へ変わっていったということになる。

みなさんよくご存じのように日本はG7でも東アジア19カ国の中でも、ジェンダーギャップは最下位。女性が自立した国ジェンダー平等な国は出生率も高く、日本のように「家観念」だけで女性を従属させると、結婚に夢も希望もなく出産年齢が過ぎてしまい少子化に歯止めがきかなくなるのでは。けれど海外での別姓婚をした方の「法的な夫婦と認めて」という2021年の裁判では、「日本の戸籍には載せられないが合法である」という判決が出たので、少しでも風穴があけばと思っている。

<バックラッシュとファクトチェック>

バックラッシュとは、人種やジェンダーなどの社会的弱者に対する平等の推進や地位向上に対して反発する動き。ファクトチェックとは、社会に広がる情報・ニュースや説が、事実かどうかを調べて正確な情報を共有する営み。地元の議員にお願いに行った時に「お寺や神社の団体にもお願いして」と意見を貰った。私は法律を作る立場の人に意見を求めているのに何故?という疑問がわいた。

実は2010年辺りから地方議会では、夫婦別姓や同性婚、LGBTQなどに対してのバッシングがあり、すごい反対があった。政策上の困りごとを訴えているのにいつの間にか、思想信条と捉えられる状況だった。バックラッシュをする団体は匿名のアカウントを使ったネット上の中傷を膨大な数浴びせて黙らせたり、同じ様なビラ配りをいろいろなところで繰り返す。家族の解体を意図すると信じている夫婦別姓など、まさしくイコール共産主義で、ジェンダーフリー教育、性教育、パートナーシップなどもバツだ。

別姓に関する最近の世論調査では、当時の大臣の「設問がおかしい」との意見を無視する形で出されているが、子どもへの影響には一体感を失い、違和感と不安感を増長させ、子どもの名前の違うことは虐めに繋がると、ネガティブで偏見を誘うかのような設問で、おまけに結婚コア世代の20代、30代が584人、60代は



リモート講演会

その2倍、10代の63人の12倍も70代以上がいるという、わざわざ対面から郵送に切り替えた不思議な調査だった。

<政治と宗教？>

今年ほどこの問題が賑わっている時はない。あの一連の宗教団体の事件から、あからさまになった事実には驚愕するが、宗教票で当選した男性議員が裏にいるのに、多くの女性議員が矢面に立たされるという構図。家制度の根強い価値観を持つ人たちに当事者の意見を声を聞いて

<質疑応答>

Q：クォータ制導入やその他のなかなか実現できない問題は、各団体が横につながる事が大切。個別でなく繋がってほしい。

A：1980年代と違うのはネットがあること。SNSの力で爆発的効果を生み、誹謗中傷もすごい手を取り合っていく。今は20代の人たちが地方議会に女性議員を輩出する“フィフティーズプロジェクト”という動きがあり、若い人がやり始めていることがうれしい。

ほしいと申し入れるのは、本当に大変なこと。多様性を否定することも、また多様性の意見だなどと、訳の分からない論破をされたりする。私たちの団体は今法人化を目指している。選択的夫婦別姓はあくまで最初の一步。人権教育、法教育、金融教育などいろいろな形を提供していきたい。とにかく来年には法案を国会にあげて、開かれた場所で議論をして、毎日のようにメディアが取り上げているこの問題のうみを出し切って、人権の方を向く政治を改めて始めてほしいと思っている。

<アンケートより抜粋>

- ・選択的夫婦別姓への圧力がそんなにもあるのかと驚いた。
- ・なぜ法制化が進まないのか、宗教、思想団体との癒着を、今この時期だからこそ余計に実感した。タイムリーな話題だった。
- ・男が変わらなければいけないと痛感した。
- ・選択的夫婦別姓の呼称のすわりの悪さに疑問を持っていたが、夫婦同姓強制廃止とおっしゃっていたのが、とても印象に残った。

アンケートにもあったように本当にタイムリーな講演会になりました。何故？という疑問が少しでも解消されたのではないのでしょうか・・・？私たちのかしまし座にある「選択的夫婦別姓」のコントのセリフにも、今日の内容を付け加えてみたいです。尚今回、講師がご厚意でアカウントを使わせてくださり、リモート講演会の無事開催に至りました。井田さん本当にありがとうございました。今後のことを考えれば運営上の問題としてネット状況も整えていかなくてはと思いました。また11月18日この井田さんの講演会をきっかけとして、岸和田女性会議は市議会に意見書を添えて陳情書を提出したことを記しておきます。

(竹末 美恵子)

日本女性会議 2022 in 鳥取くらし

10月28日(金)～30日(日) 参加者 6名

3年ぶりの対面の開催でした。1日目は午後から9つの分科会が休憩をはさんで、前半と後半に分かれて行われました。

私は第1分科会「未来創造コンテスト～高校生が夢をかなえる第1歩～」に参加しました。地元の高校生の7つのグループが、SDGsの17の目標とのつながりを考えながら鳥取県中部地区の魅力を発信しました。それぞれのグループの問題意識やアプローチ、プレゼン方法はさまざまでした。先輩から引き継いだ5年間の研究成果を発表した後輩のグループ、高校1年生で初めて一人で探求に取り組んだ高校生、どのグループも地元をいかに魅力ある街にしていけるかを考えた発表でした。

アドバイザーとして東京大学名誉教授の上野千鶴子さん、リコージャパン株式会社マーケティング本部の米谷正児さんが、高校生に対して、子ども扱いせず示唆に富むアドバイスを的確にされていました。それを受けた高校生たちは新しい視点、新しい課題を広めた姿が印象的でした。

司会進行を担当した2人の高校生からは「人とのつながりを大事にしながら自分たちの課題に取り組んでいきたい」との発言がありました。

2日目はオープニング「打歌童子ばやし」天女は子の幸せを祈り、子は母を想い太鼓と笛を吹き鳴らす。中高

生を中心とした和太鼓の演奏を会場に響かせて始まった開会式でした。

記念シンポジウムでは『弱者が弱者のまま尊重される社会とは？～

「ひとりでもいきいけそう」と言われる私たちの経験から～』鳥取大学に通う3人の学生の発表でした。3人が共通して自分たちの幼いころから見てきた母親の姿からジェンダー分野に興味を持ち始めたこと。自分たちが見てきた社会、触れてきた言葉、そこには多くの理不尽と違和感があふれていました。地区行事で裏方として働かされる女性の姿、夫の地元で生きていくことを選んだ母親の背中、痴漢にあうのは女性の油断だと言われたあの日、この社会を生きていくには、器用に空気を読むしかない、強くなるしかないと思ってきた体験談でした。

上野千鶴子さんからは3人にそれぞれコメントがありましたが、私が印象に残ったのは「権利主張とわがままの境界線は、その時の社会で変わる。女の我慢と自己犠牲が現状を変えないままにしてきた」という言葉です。

会場内にたくさんの中学生のボランティアがいたり、分科会の高校生の発表、さすが大学生の自問自答をしながら自己分析をしたシンポジウムの発表。若い人たちが頑張っている倉吉市の日本女性会議でした。

(小南 ひとみ)



お知らせ

第35回 総会 4月8日(土) 13:30～15:30 市立男女共同参画センター

2022年度 岸和田女性会議男女平等参画社会推進事業
自分らしく生きる道 ジェンダー平等社会の実現をめざして

～一人ひとりの性と幸せとは～

講師 真道 ゴーさん (株)真道 代表取締役

1月22日(日) 13:30～15:30 市立男女共同参画センター 参加者31名



最初に、YouTube『真道ゴーの波瀾万丈で愉快的な道のり』を観て、それから真道さんの講演が始まりました。

私は「性同一性障害」の話をするつもりはありません。普通って何だろう？そこにあてはまらない自分をどうしたらいいのか。女性と生まれ男性の心を持っている、そういう自分が何を感じながら生きてきたのかをお話したいと思います。「性同一性障害はこうなんだ」とカテゴリー化しないでください。私の話はほんの一例です。悩んだりしながら前を向いて生きている人がいることをまず知ってほしいし、皆さん自身の心に何か繋がりを感じていただけたら、と思います。

子ども時代は、貧乏だったので不幸せだと感じていた。両親から「お金はないが、目に見えない得点は残せる、人を大切にすることは残せる」と言われた。やんちゃな女の子。いつも遊ぶのは男の子4人と私で基地作り。一年半袖短パン。5年生になると胸が出てきたので服を脱いだら駄目と言われる。男の子と一緒に風呂に入ったら駄目と言われる。女やから女と遊べと4人の男の子からいじめられるようになる。女の子のグループで遊ぶようになった。

中学生の制服で初めてのスカート。女の子やから仕方がないと思ってはいていた。バスケット部所属、不良グループに入る。恋愛、デートしたこともあるが、男性とつきあうと気持ちが悪いと思う。友だちの女の子と一緒にいると幸せな感じになる。「女の子が好き？」と聞かれたが、友だちを失いたくないから嘘をつくことにした。

和歌山の体育科のある高校に合格。不良グループと手を切り、バスケット部で頑張る。仲の良い友だちを好きになる。人生なんとかやっていけるかと思っていた。

大学、同じ部活の先輩とつきあうことができた。しかし、同級生達とは上手くいかず孤立。その人の前では男として振る舞える。この人さえいれば良いと思うようになる。そんなある日、彼女からは「今も好きだが、あなたといると未来が持てない。つきあっていると人に言えない。普通の幸せが欲しい。あなたは所詮女やから」。その言葉に「この人の言うとおりで。自分は人を幸せにするどころか、大切にしたい人のことも苦しめてしまう人間」生きている価値がないと考えるようになり、ビルから飛び降りようと。だが死ぬのも怖い生きているのも怖い。

携帯で調べ性同一性障害でもOKという求人広告に出会う。大学をやめて北新地で男として働く。受け止めてくれる大人もいると知って嬉しかった。ホステスさんから「あんた見てると腹立つわ。自分だけが苦しいと思っているやろ。普通のおじさんもお婆さんもそれぞれ悩みがあり頑張って生きている。自分を認め自分を好きにならなさい。自信を持って生きなさい」と忠告された。それで、性同一性障害のせいにして生きてきたと気がついた。ありのまま世の中に出てみようと思った。

和歌山に帰り、両親に話そうとしたら母から「何が言いたいかわかっている。一人で辛かっただろう。男であろうが女であろうが生きてくれていて、ありがとう。あなたが笑顔でいてくれるだけで幸せ。今あなたがしていることは、あなたらしくない。先を考えて悩むより今日を楽しく生きてみようよ。前を向いて生きている人には光が見えるよ。頑張れるものを見つめよう」。

そして、ボクシングに出会い将来のパートナーと出会う。女で世界チャンピオンにはなった。しかし戸籍を変えるためにどうしたらいいのか考え始める。交際中の彼女同伴で病院へ行き、ドクターに相談すると「あなたは大丈夫。ホルモン投与や戸籍を変えることが正解でもゴールでもない。あなたには頑張れるものがある。大切なのは笑顔で生きること」と言われた。これを聞いた彼女「男とか女とか気にしているのはあんたやんか、ダサっ」、それでもこの女性と結婚できないと思っていた。

彼女は私とつきあっているのがばれて両親や妹から絶縁。世界チャンピオンになるときドキュメントを撮った。それを見た彼女の母から「出会ってくれてありがとう。娘は輝いていました。私はあなたたちを応援します」と言われ号泣。帰りの車中で妻は言った「頑張ったら報われるってホンマのことやな」と。



自分だからできることは何やろう、スポーツで何かしたいと思いました。23歳で体育家庭教師の会社を、28歳で(株)真道を立ち上げ、不登校の子、障がいのある子に運動をさせ、成功体験を積み重ねて自信が持てるように、児童発達支援・放課後デイサービスを実施しています。人の心は聞いた言葉で、人の体は食物で、人の未来は発した言葉でつくられます。現在は複合施設モンキービレッジを計画中で、山を購入してそこではみんなが楽しく過ごせ、地域の人たちと関わりを持ちながら、無農薬の米・野菜作りなども目指します。

真道さんの講演の後、高校の先輩で社員の村井さん(児童発達支援管理責任者)のお話を伺いました。

ゴーさんがキラキラしていたのでボクシングを始め、しんどいことに向き合って自信がついた。女性のパートナーと暮らす覚悟ができた。人って変わるんやと感じました。

真道さん、村井さん、ありがとうございました。

(西村 令子)



福祉部会

学習会 岸和田市社会福祉協議会「令和4年度事業計画」を聞く

9月21日(水)

講師：社会福祉法人 岸和田市社会福祉協議会 沖藤 政紀さん

第5次岸和田市地域福祉計画(以下、第5次計画)が、令和4年3月に策定されました。地域福祉を推進していくためには、行政のみならず、法人や企業、団体、市民も主体となって取り組んでいくことが求められています。岸和田市社会福祉協議会では「令和4年度事業計画」を策定されましたので、その中に示された第5次計画に関する部分についてお話をお聞きしました。

【支える人を育て・増やす事業】 ◆小・中学校における福祉教育活動の支援や助成 ◆赤い羽根キッズ教室の実施 ◆高校生への地域課題研究の支援 ◆地域における福祉委員会活動の支援 ◆小地域ネットワーク活動の推進 ◆ボランティア養成講座の開催、等々。

【支える人を支える事業】 ◆市民参加による地域の居場所づくりの支援 ◆あったか大家族募金による子ども

の居場所や子ども食堂のための資金援助 ◆災害時に備えたボランティアコーディネーター及び活動者支援、等々。

主に第5次計画の**基本目標1**「多様で多くの人が支え合い活動の担い手になっている」と**基本目標2**「地域で支える活動の基盤が強くなっている」の実現に繋がる事業計画になっているようです。

行政の各部署も第5次計画に基づき事業を展開されると思いますが、この計画で5年後のあるべき姿として示された「みんなで創意工夫し支えあい、笑顔あふれるまち」が実現されているよう、「地域福祉推進委員会」において第5次計画の進捗をしっかりと評価・検証していただきたいと切に願います。

(西田 幸子)

悠遊・UBAステーション

学習会

シニア世代の安心した暮らしに向けて part2

9月27日(火)

講師：ファイナンシャルプランナー 磯崎 大詩さん

少子高齢化といわれて久しい我が国の現状の一端を、リアルな数値をもとに解説していただきました。

高度経済成長期の1970年の社会保障給付費総額は僅か3.5兆円。それが現在は131.1兆円。国内総生産が約75兆円から565兆円の伸びに比して、社会保障給付額が如何に高度成長しているかが分かります。給付される側が今後も増え続けていくのに対し、税を納める世代の人口は減り続けています。

2022年10月からパート・アルバイトの社会保険加入義務が拡大しますが、これの負担に耐えられない企業、また従業員自身も保険料の支払いで収入の減る場合があり、こうして現役世代の負担は増え、年金世代の給付は減少していきます。「自己責任」が吹聴される世の中、資産を築けずに高齢者となり、受給年金も少額なら生活保護を受けざるを得ません。

生活保護受給者が増加すれば保護費は減額され、2025年に団塊の世代が後期高齢者になると、介護保険の利用も一層増えて保険料は上がり、現役・高齢両世代にとってますます厳しい環境となるでしょう。

今後2040年まで年に60万～100万人ずつ人口が減っていきそうです。これは経済の縮小も意味し、これまでの国策の過ちを指摘しても解決にならず、未来へ向け知恵を絞り発想の転換をして、この先を生きる人々が現実に立ちゆくやり方を考えねばなりません。

現在、時代は男女共同参画へと歩みはじめています。そして合葬式墓地が当市で実現の運びとなりました。また金融機関や行政においても世の変化と共にいろいろなニーズに合わせて、単身者向けの新しいサービスなども出現し始めています。

これからの日本を思うと不安ではありますが、シビアな現実を知っておかなければいけない、と痛感しました。

(柳澤 早苗)

市民合葬墓についての説明会

11月22日(火)

参加者：水とみどり課 渡邊参事・西尾主幹・門前主任
設計担当 (株)オオバ 坊内さん
女性会議 10名 一般 2名

永年願っていた市民合葬墓建立がいよいよ実現することになりました。

はじめに、市側から、パブリックコメントへの対応の説明、続いて市民合葬墓の規模、設置場所、モニュメント、今後の予定などについて説明がありました。

いただいたご意見は殆んど取り入れさせていただいている。一応、岸和田市在住、在勤、岸和田出身者を対象に、7500体をお預かりする規模で考えている。個人で考えてはいるが、引き継ぐ人がいないための墓じまいも考慮して、先祖の場合は〇〇家という形も想定。生前予約も、考慮する。動物と一緒にという意見は、近くに動物用の墓地があるのでお断りする。

立地の位置は古い墓苑に隣接する三角地で、北側の残存樹木を出来るだけ活かして、少し高い位置に道路側に向いて設置し、見上げながら緩やかな勾配で上がるように考えている。

安置(納骨)は、10年(200体)、20年(300体)を予定。基本的には合葬墓はコンクリート製なので50年で終了することになる。

モニュメントは一体型と分離型があり、他市の写真を沢山示して説明。分離型の方が美しいという意見と、一体型だと建物があるのでお参りの際、雨除けの庇などが付けられるという意見があった。合葬式墓地デザイン案は市民投票を行う。予算は今年度末に決定する(1億円の予定。設計費は2000万円であった)。来年から施工にかかる。運営のための費用などはまだ決定していない。

説明会は、途中質問をしながら行われました。今後、充分注目していきたいと思っています。

(中塚 鞠子)

市民環境部 廃棄物対策課との懇談会

日時：11月27日(日) 10:00～11:00

参加者：廃棄物対策課 山本課長・大工参事・櫻井担当長
女性会議 8名

① 資源物の行き先と売却について

資料「令和3年度ごみの分別収集・回収状況」と「令和3年度資源物の行き先」をもとに一般家庭から出された資源物の流れについて、また回収品目によって12形態13種にわけて定期回収・申込による回収・集団回収・拠点回収等され、各事業者へ搬送・処理されるとの説明を受けました。

② 空きびん・空き缶・ペットボトル・プラスチックゴミのリサイクル率について

「令和3年度容器包装類リサイクル率」(カッコ内は令和2年度実績)によれば、空きびん77.2%(75.3%)空き缶100%(100%)、ペットボトル92.2%(88.9%)と昨年度よりもリサイクル率の向上が見られたとのことでした。

③ 岸和田市におけるプラスチック資源循環促進法について

令和3年6月制定・令和4年4月施行「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラスチック新法)」の岸和田市での施行に関する進捗状況をうかがいました。結論としては、現時点では未着手で、その原因と

して、プラスチック全般を再資源化する方向は示されているものの、製品プラスチックの再資源化に関する法整備が追い付いていないため、自治体ごとの再資源化の事業計画の構築が遅れているとのこと。

④ 岸和田市災害廃棄物処理計画の進捗状況について

「岸和田市災害廃棄物処理計画【概要版】」に示されているとおり、現在災害ごみ発生時での一時集積所(近隣集積所)選定が最終段階に入っているとのこと。

⑤ その他(質疑応答等)

プラスチック新法に関する追加質問が多く上がりました。実稼働の際に分別品目に変更があるのか?とか、全国の自治体の困りごとになってしまっているプラスチック新法を使えるものにする方策が無いのか、とか現場に対する応援メッセージの様相も現出しました。

一方、排出ごみの中の異物・不純物についてお聞きしたところ、実例を示して下さい、かしまし座「このゴミどっち?」の説明等に使える情報をたくさんいただきました。(小生 富士枝)

『2022年度男女共同参画センター・大宮地区公民館合同まつり』に参加して考えたこと

コロナ禍のため2年連続中止となった合同まつりが、昨年11月19日・20日に開催され、女性会議からは発表部門と模擬部門に述べ29名が参加しました。発表部門では『かしまし座』が大活躍。模擬部門には大勢の小さなお子さんを含む幅広い年齢層のお客様にお越しいただき、他団体の展示会場をそぞろ歩けば華やかな、懐かしい、なるほどと改めて考えさせられる様々な事物を目にすることが出来ました。

この間、職員スタッフと登録団体の関係者がよく協力し、慣れない中、事故もなくスマートに運営してお開きとなったのは良かったです。と同時に2018年度末まで存在した旧女性センターでのことが思い起こされました。

旧女性センターは、男女平等参画社会の実現へ向けて活動する市民のための「拠点施設」として条例に明記されており、このことは「男女共同参画センター」と名称こそ変わっても、センターの役割や機能に変更はないはずだと考えていたのですが、かつて広報紙上でインタビューした元女性センター館長の言葉が蘇ります。曰く「複合館となることは飛躍のチャンス!」「女性センターの存在意義や独自性を明確に示さなければ」。



しかし現実には、旧女性センター時代の『センターまつり』で実施されていた「男女平等参画に資する講演会」はなくなりました。これはとても残念なことで、ぜひ復活させていただきたいと思っています。

また市制100周年に当たる昨年、市から全戸配布された『岸和田市暮らしの便利帳』の、市の主な施設の中に「男女共同参画センター」が載っていませんでした。市は元福祉関係の施設だった所を、施設整備のための国からの交付金を活用して『男女共同参画センター・大宮地区公民館』とした、と聞いているのにどうしてでしょうか。大宮地区公民館の方はちゃんと載っています。



センター職員も「センターの認知度の低さ」に悩んでおられると聞きます。当市では2011年に『男女共同参画推進条例』が施行されて、この条例に則ったプランが策定・実施されてきたにもかかわらず、男女平等参画意識の周知はなかなか進んでいないようです。

そこで男女平等参画意識の周知・啓発をより強力に進めるため、ぜひ『男女共同参画都市宣言』をしていただきたく、そしてこの「合同まつり」が、センターの存在を広く市民に知ってもらえるきっかけになれば、と思います。

(合同まつり実行委員 実川 孝子)

市議会議員との勉強会

日時：10月12日(水) 13:30～15:00
場所：市立男女共同参画センター
議員：井舎英生・今口千代子・倉田賢一郎・田中市子
堂本啓祐・殿本マリ子・中井良介・松本妙子
8名(敬称略)
女性会議：11名

熊取代表の挨拶、お互いの自己紹介と続くうち和やかな雰囲気となり、活発な意見交換ができました。

I 男女平等参画都市宣言について

女性会議：2011年に男女共同参画推進条例が施行され、2021年には第4期岸和田男女共同参画推進プランが策定されました。岸和田には性別役割分担意識がまだまだあり、条例や男女共同参画センターの認知度も低いです。市をあげて男女共同参画社会作りに取り組むには、宣言都市となってその機運が高まっていけばいいと思います。

議員：宣言には賛成ですが、思ったほど宣言している都市は少ない。最近はその機運もなくなってきています。広がらなかった理由があればお聞きしたいです。

女性会議：理由はわかりませんが、バックラッシュもありました。条例やプランを知らない市民が多いので、せっかくの市制100周年、それを盛り上げてみんなが平等だということを改めて知って、住みやすい町にしていきたいです。岸和田市がそれをやってほしいです。

議員：全体的には進んでいると思いますがゆりもどしもある。足をひっぱったり、押さえ込もうという力が働くのではないのでしょうか。

議員：要望をだしてもらえれば、議員で前に進めていきたいです。

女性会議：『岸和田市暮らしの便利帳2022』の施設一覧に男女共同参画センターが抜けていてびっくりしました。編集の時の手違いと説明を受けましたが、センターの周知をしたいと思っているこの時期にとっても残念に思いました。

II 第5次岸和田市地域福祉計画について

女性会議：誰もが住み慣れた地域で自分らしく生きていける社会を作るという地域包括ケアシステムの構築について、また地域共生社会の実現が岸和田市においてどのようになされているのかなど、よりよい岸和田市を作っていくという目的で学習を続けています。第5次活動推進計画が策定されたので、岸和田市の取り組みを具体的に学びたいと思い、担当者より説明を受け、とても素晴らしい内容であることを確認しました。現場の声を聞いて、岸和田市の課題をまとめてみました。

- ①地域福祉に対する市民への周知啓発が十分になされていない
- ②地域包括ケアシステムの担当課が明確でなく、専属の職員がいない
- ③地域ケア会議の回数が少ない
- ④地域の課題を解決する仕組みが整備されていない
- ⑤『第5次岸和田市地域福祉計画』が策定されたが「地域福祉活動推進計画」が策定されず、実際の状況が

わかりにくい

議員：岸和田の場合は地縁社会で、町会・小学校区の町会連合会・市民協などが伝統的にあります。地域社会の中の福祉がそれぞれの縦の組織のつながりでできています。その単位で公民館をうまく活用したらよい。行政には地域が活性しやすい予算を取ってもらい、中心は福祉部でなく、今までの市民生活部、自治振興課などでやるのがいいのでは？

議員：第5次基本計画ができあがってから社協が推進計画を立てると思っていました。社協が中心になるべきと思っているので、確認しておきます。地域共生社会というのは、互助制度を作ろうということ。行政として、それを地域に任せきりにせず、市としても支援していくシステムを作っていく必要があると思います。高齢化社会で本当に人材がいるのかという不安があるし、もっと行政が関わるべきだと思います。

議員：国も3、4年前から重層的支援の整備体制を強化しています。いろんな悩みが一人の肩に重なってくる。岸和田市は介護においても地域包括支援センターの体制が強化して、今年度4月より社協に委託して引きこもりの担当窓口ができました。引きこもりの人の居場所作りも週1回開設しました。障害、介護、保険部も生活困窮者の担当窓口が引きこもり支援を立ち上げました。地域包括支援センターには本当に感謝しており、地域包括支援センターの強化には私自身力を入れているので、人員と予算の確保も市に相談しながら進めていきたいです。

女性会議：重層的支援の体制がかなり進んでいるということですが、行政も人材不足ということで、いろんなところ(地域包括支援センターや社協)に委託しています。私が伝えたいのは、ボランティアをしたい、何かお手伝いをしたいと思っている人がかなり埋もれていますので、引きこもりや障害の人の居場所作りにしても、行政ばかりで無く、地域の人が参画できるような仕組みができればいいということです。地域作りが一番大事だと思います。

議員：賛成。ちょっとした困りごとを手伝える人を地域で支えていかないと、地域包括支援センターだけでは立ちいきません。地域を挙げて支えていける岸和田にしたいと思っています。

議員：障害者の支援は、フォーマルなサービスだけでなく近所関係などいろいろ含めて、何か応援してもらえないものはないか、できることはないかを見つけ、それを積み上げていけば、地域にあったらいいなというものが出てくる。これが政策につながらないかと思っています。しかし計画を作る相談員も数が足りないし、お金の支援も必要。相談をしていく中で、人を中心に作っていくことが一番大切。これが「地域ケア会議」の重要なところだと思います。自治体としてお金を注いでいくことの大切さなど訴えていきたいです。

議員：北野町と上松町西の取り組みを具体的に教えてください。

女性会議：北野町は、地域でアンケートを採り、困っ



ていることとやりたい人をマッチング。上松町西は、同じくマッチングをして、有償ボランティアですが地域通貨を導入しています。

議員：リーダーとなる人材がいたのですね。チーム作り、強めていける可能性はあります。

女性会議：チームやグループができるように地域に広めていただきたい。それを社協などが支援してほしいです。

女性会議：リーダーがいるからできるけれど、高齢化などでいつまでもは続きません。どこから人材を見つけるか、仕組み作りをするのが大切。地域の何が不足しているかを共通認識し、そこから政策形成につなげていかなければいけないのでは。

議員：地域ケア会議はどこが主催？

女性会議：地域ケア会議は介護保険法に基づいてされるもので、地域包括支援センターが主催です。地域の課題を吸い上げてそれを政策形成に持っていきます。会議をして、困っている人がいるなら、この地域はこういう風にしましょうと決める。すると介護保険も使わなくてすむ、という形に持って行けたらと思います。

女性会議：地域福祉計画についてはせっかく素晴らしい計画を作っても、市民に知らせなくては意味がありません。民生委員でさえも知らない。どうしたら市民に知ってもらえるのかを、もう一度皆さんと考えたいです。

議員：今現実にある地区福祉委員会の活動をもう少し広げたらいいと思います。

女性会議：こういう福祉プランなど、行政は配ってくれません。「ダウンロードせよ」が多いです。

女性会議：今回300冊作ったとのことですが、300冊なんて民生委員だけでもなくなります。行政は配る気が無いのでは。

女性会議：概要版さえも少ない。作ったと聞いても、どこで市民の目に触れているのか、それをどこに置いてあるの役所は作るだけで、地域を回ったりしません。相談に来たらかも分かりません。

議員：応じるけれど、現場に出向いて様子を聞いたりはしていません。

議員：文書は一般市民の方に配っても読みません。諸団体のトップの方たちに何部要るかと声掛けしていけば、もっと増刷されるかもしれません。地域包括支援センターには大変お世話になっています。山手は横のつながりがうまくいっていますので、このようなシステムがほかのところでもできたらいいと思います。

Ⅲ 選択的夫婦別姓の法制化について

女性会議：選択的夫婦別姓の法制化を進めていくには、国会を動かさねばなりません。そのためには岸和田市議会から意見書を出していただきたいです。

議員：岸和田女性会議から要望書を出して、それに対して私たちが賛同すれば通っていくと思うので、出してください。

.....

お忙しい中参加してくださった議員の方々に感謝いたします。誰でもが自分らしく生きていける住みやすい岸和田を目指して、意見交換し、アドバイスをいただけるこの貴重な勉強会を今後もずっと続けていきたいと思っています。
(馬場 由美子)

拡大VOICE

「駄言」

中川 麗子

『駄言』に出合ったのは、きしわだ男女共同参画フォーラム「幸せを求めて・・・」のパネルディスカッション「幸せのカタチはいろいろ」の4人のパネリストの1人として関わることになり、講演「心をくじく『駄言』なくすために」の講師、『日経xwom^{クロスウーマン}』副編集長小田舞子さん編集『早く絶版になってほしい #駄言辞典』でした。

この本のまえがきに、2020年11月、日本経済新聞は紙面で、ある呼びかけをしました。

『心を打つ「名言」があるように、心をくじく「駄言」(だげん)もある。「#駄言辞典」を付けて、駄言にまつわるエピソードをつぶやいてください。まとめたものは、絶版を目指して出版します。』とあります。

その後、1200もの駄言が投稿され、本書ではそれらを「女性らしさ」「キャリア・仕事能力」「生活能力・家事」「子育て」「恋愛・結婚」「男性らしさ」の6つのカテゴリに分けて、なぜ駄言が生まれるのかを歴史的背景や社会構造などから分析しています。

「女の子だから…」「女のくせに…」「女の子に…」「女性なのに…」「女性管理職」「女性が活躍する社会」「女性活躍推進」そして「女らしさ」「男らしさ」「男のくせに…」「男だね～」「男になった」などなど、性別に関する駄言はきりがありません。また、以前は「男は仕事、女は家事・育児」でしたが、共働き世帯が多い現在は、「男は仕事、女は家庭も仕事も」、そしてイクメンと自負している夫から「家事、育児手伝うよ」と言われ、このフレーズが駄言のトップとか？「主人」「家内」「お嫁さん」「旦那さん」「奥さん」「内助の功」など『#駄言辞典』にはこれでもか？というほどあります。普段何気なく使っている言葉、思い込みによる発言が多いです。そして言った本人には悪気がないことも多いと小田さんは言っておられます。

そう言えば東京五輪組織委員会元会長は、性差別発言「女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかります」で辞任、「女性を蔑視する意図はなかった」と強調したとか。

本書に野田聖子さんは「駄言をなくすことはできないが、多様な意見を持つ人が分かり合おうとする姿勢が大事だ」と言っておられます。普段使っている言葉にもっと敏感にならなければと思います。

※参考資料『早く絶版になってほしい #駄言辞典』(日経xwom^{クロスウーマン}編)



第32回 かしましフェスティバル 2月26日(土) 13:00~16:00 市立男女共同参画センター

尾矢 千衣子

いわゆる高度経済成長期に生まれ育ってきた私。例えば、小学生の時、東京オリンピックの開催に日本中が沸いたこと。アポロ宇宙船が月面着陸し、中学生になって大阪万博でその月の石を見るために何時間も並んだこと。モノの大量生産、大量消費が生活の豊かさのように思われてきたが、バブルがはじけたとたん、打って変わって「シンプルライフ」が謳われ、今やSDGsを唱える。いつも口先だけのスマートな合言葉だけが独り歩きしてきた。

そして、いわゆる戦争を知らない子どもたちとして大人になった私。高校生の時、沖縄の本土復帰に、海外だった沖縄が日本の国内になったという高揚感。そしてリゾート地としてあこがれになった。でもそれだけで、沖縄の戦争につながる何の歴史的知識もなかった自分が恥ずかしい。

今、平和運動を続けながら、まさかテロの爆撃や虐殺、地上戦や破壊の映像が現実世界でおこっているなんて。歴史は繰り返すというけれど、今、まさに負の歴史が繰り返されようとしている。そんな世の中に自分が大人になって生きているなんて、子どものころは、想像だにできなかった。高齢者になって、こんなにも世の中のことに悩み抗うことが多くなるとは、思いもよらなかった。けれど、思い悩むことができる間は、自分がまだまだ元気な証拠。行きたいところへ行き、知りたいことを知り、思いの丈、生きていこう。

これって
ホントに平等?
その2



シェフの専門職には、男性の方が多く感じている。最近、家庭料理の宣伝にも、男の台所、男の手料理等々、魅力的な響き。我が夫は、最近車の免許を返納した。それ故、家族の病院通い、母親の介護、普段の買い物など、車使用に関することはすべて、私の肩にドッと押し掛かってきた。

そこで「食事の準備は折半にしない？」と夫に持ち掛けてみた。「それだけは絶対にイヤ！」即答であった。夫の気持ちは“男子厨房に入らず”とまではいかないにしても、事あるごとに毎日の食事作りの、交替の必要性を打診してみるが、頑なに「うん！」と返事が返ってこない。

興味の無いことは強要しないでほしい！ということか。興味？そんな次元の問題ではないだろう。お互い、物事には得手不得手があるのは理解しているつもりだが。老後は、夫と2人で助け合っと思いついていた私の独断であったのか。我が家の食に関しての共同作業には、もう少し時間が掛かりそうだ。

(溝口 信子)

お知らせ

晶子からあなたへ DVD上映会&講演会
市立男女共同参画センター
講師 阿笠清子さん 3月11日(土) 13:30~15:30

あゆみ(8/8~2/20)

・福祉部会	5回	・選考委員会打ち合わせ	12/4	・平和を考える戦争展実行委員会	3回
・女性学サークル	7回	・講演会チラシ等発送作業	12/22	・岸和田市総合計画審議会	10/18
・ワーク部会	7回	・阿笠さん講演会事前打合せ	1/11	・100周年記念事業実行委員会	10/18
・サロン・ドゥGOMI	4回	・役員選考委員会	2回	・岸和田市生涯学習審議会	10/18
・悠遊・UBAステーション	3回	・市長との懇談会事前学習会	1/18	・岸和田市だんじり祭り運営協議会	10/25
・事務局会議	5回	・真道ゴーさん講演会	1/22	・市政施行100周年記念式典	11/1
・役員会	5回	・部長会議	1/28	・岸和田市人権協会幹事等研修会	11/10
・広報委員会	10回	・市長との懇談会	2/8	・合同まつり実行委員会(全体会)	2回
・かしましフェスティバル実行委員会	8回	・広報105号発行	2/15	・地域公共交通協議会	11/15
・女性学サークルリモート練習(zoom)	8/31	・広報105号発送	2/17	・合同まつり	11/18~11/20
・悠遊・UBAステーション講演会	9/27	・かしまし座公演(光陽大学・沼町会館)	2/17	・人権週間街頭啓発活動(JR久米田駅)	11/30
・市議会議員との勉強会の事前学習会	9/28	<審議会、委員会、行事への参加>		・人権を考える市民の集い	12/3
・夫婦別姓を考えるPART IIリモート講演会	10/1	・生涯学習支援チーム	5回	・子ども子育て会議	2回
・市議会議員との勉強会	10/12	・文化祭サポーター会議	2回	・男女共同参画センター登録説明会	12/10
・かしまし座練習打ち合わせ(合同まつり)	10/22	・岸和田市男女共同参画推進審議会	2回	・岸和田市防災会議(書面開催)	12/28
・日本女性会議鳥取くらよし	10/28~10/30	・合同まつり実行委員会(模擬部門)	10/1	・人権問題専門講座	2/2
・悠遊・UBAステーション水とみどり課からの説明会	11/22	・岸和田市人権協会役員会	10/4	・100周年記念事業きしめしリリース	2/9
・役員選考委員開票作業	11/30	・岸和田市人権協会幹事会	2回	・住居表示審議会	2/17

編集後記

岸和田市市制100周年の年、この一年ほど平和のありがたさを感じ大切にしなければいけないと実感した年はありません。女性会議は『人権を守り、平和で安全な男女平等参画社会の実現』をめざして活動しています。是非ともこの記念の年に『男女共同参画都市宣言』をしていただき、平和で人権を大切にす都市としての101年目を迎えたいと思います。

(池田・貝塚・実川・竹末・中川・馬場・溝口)

会員募集中

個人会員…1000円

団体会員…2000円

*問合せ 080-4984-5226